

年頭所感

「膜学会は新しい時代を迎えます」

日本膜学会会長 九州大学 後藤雅宏



今年のお正月は全国で晴天に恵まれましたが、皆様におかれましても健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。新しい年は、「子」（ネズミ）年ということで、十二支では「繁栄の年」という言い伝えがございます。ネズミ年を「子」と表記するのは、動物の中で最も子沢山の動物がネズミであるからだそうです。日本膜学会は、本年4月より一般社団法人化され新しい時代を迎えます。法人化後の膜学会も皆様と共に益々繁栄することを願っています。

恒例に従い年頭にあたり、会長の所感を述べさせていただきます。

1. 学会HPの充実と膜誌のオープンアクセス化の促進

昨年から新たに導入された年会とシンポジウムのHPシステムが順調に稼働しています。学会の発表申し込みや参加申し込みが全てHPのwebシステムを通して可能となり、大変便利になりました。このため昨年度のシンポジウムでは、事前の参加申し込み数が過去最高となりました。本年からは、会員サービスをさらに充実させるために、年会やシンポジウムの要旨集をHPにアーカイブスとして残し、会員はいつでも自由に閲覧できるようになります。また、昨年まで試行として行って参りました原著論文のオープンアクセス化を、本年からは完全実施することを決定いたしました。このため、膜誌に掲載された原著論文は誰でも自由に閲覧が可能です。さらに、現在は膜誌購読会員しか読むことのできない総説・解説記事も、会員に限って3年後には完全公開することになりました。今後は、膜誌に関する様々な資料や情報（著書）を格納し、さらにHPを充実させる予定です。

2. メールマガジンをはじめました

すでにお気付きのこととは存じますが、会員サービスの一環として、事務局の渡部様のご支援のもと「日本膜学会メールマガジン」をはじめました。当面は不定期の発行ですが、膜誌の内容、年会、シンポジウム、国際会議の情報などをできるだけ会員の皆様にタイムリーにお届けしたいと思っています。会員の皆様も、このメルマガに掲載希望の情報がございましたら、是非事務局までお知らせ頂ければ幸いです。将来は、人材の公募情報なども掲載できればと考えています。

3. 42年会と膜シンポジウム2020について

法人化に伴い、年会の開催時期がこれまでより少し遅くなり今後は6月にずれ込むことになります。本年の42年会も松方先生のご尽力で早稲田大学にて6月1日～2日の日程を確保することができました。現在、組織委員長の野村先生、副委員長の松木先生のもと様々なシンポジウムが企画されているところです。是非、多くの会員の皆様にご参加頂ければ幸いです。

昨年膜シンポは、馬越運営委員長のもと、大阪大学で開催されました。参加人数もほぼ200名と安定して参りました。「人工膜と生体膜の融合」を掲げた本大会では、発表プログラムが、人工膜と生体膜が交互に混じり合った編成が特徴的でした。しかしながら、昨年の年頭所感で、松山会長からご提案がございました新企画の実現や複数会場での開催は、引き続き継続課題となっています。今年のシンポジウムでは、若手研究者や企業参加者を取り込んだ新たな取り組みを期待しているところです。皆様の新しいアイデアをお寄せ頂ければ幸いです。なお本年の膜シンポは、寺田運営委員長のもと、11月12日～13日に神戸大学で開催されますので、皆様ご予約ください。

4. ICOM2023の日本開催が決定しました

日本膜学会が関わる大きな国際会議として、毎年開催されますアジア環太平洋のAMSと3年おきに開催されます世界膜会議ICOMがございます。昨年AMS12は、韓国の済州島で開催されました。本年2020は、ICOMが7月に英国のロンドンで開催予定です。次のICOM2023は、アジア環太平洋での開催が決定しており、昨年のAMS12の理事会で招致合戦が繰り広げられました。山口副会長のプレゼンテーションの結果、僅差でオーストラリアを破り、見事ICOM2023の日本（幕張）開催が決定いたしました。当学会としましても、日本のプレゼンス向上に重要な機会と存じますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

5. 産学連携の強化と産業部門の活性化

膜学会には、現在多くの企業研究者も参加頂いています。これは、本学会に産業部門委員会が設置された点が大きいと考えています。この考えを大切に、さらに産業部門の活性化を図ることが重要です。これまで、松山会長のもとで、40年会ではじめて企業セッションが開催されました。さらに、2019年の年会および膜シンポでは、新たにフラッシュプレゼンテーションの機会も設けられました。この流れを大事にし、さらに工夫を凝らして、多くの企業研究者が喜んで参加いただける年会やシンポジウムにしたいと考えています。本件は、産業部門委員会の川勝委員長と連携をとって、アカデミアおよび企業会員双方に有益な活動に発展させたいと考えています。

なお、本年4月の法人化に伴い、膜学会の開始月が4月になります。このため従来1月に請求していた年会費も4月からの請求に変更されます。また、年会費も膜誌会員は15000円（年会費6000円+会誌9000円）とややお安くなる一方、これまでの会報会員の年会費が6000円と値上がりしてしまいます。この点臨時総会でも中尾先生からご指摘頂きましたが、さらに会員サービスの充実を図り、会員の皆様に満足頂ける学会にいたす所存です。本年も皆様からの温かいご支援、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。